

# 新に南洋を視察して

貴族院議員  
公 爵

一 條 實 孝

予等貴族院議員一行今回の南洋視察旅行は極めて短コースであつた。横濱を出て最初に先づサイパンに行き、テニア、ロタから、南洋廳の所在地たるパラオ島及び、邦人が麻の栽培で成功してゐる比律賓ミンダナオ州のダバオを訪づれ、次いでセブに立寄り、なほマニラを訪うて後、臺灣に赴いて、打狗から上陸し、臺北・基隆を経て内地へ歸つて來たのであつて、僅に一箇月間の旅行であつた。

其の短期間の旅行中に瞥見して來た概觀を言ふと、先づ第一にはサイパン群島の所觀である。大體が我々の視察旅行の主要目的の一つは、サイパン、テニア、ロタ方面に於ける邦人の事業上の活躍を見に行く事にあつたのであるが、其れ等諸島の内でも殊にサイパン、テニア二島に於ては邦人の事業が驚くべき成功を示してゐる。即ち此等の島では、會津人の松江春治氏を中心とする南洋興發株式會社の砂糖栽培事業が實に偉大なる業績を擧げてゐるのである。サイパンは方六七里の島であるが、殆ど其の全島

が砂糖島で、なほテニアでも同様であると聞いた。ロタでは比較的砂糖島が少いが、それは燐鑛の爲であつて、最初此處へも砂糖の栽培を初めた處、どうも結果が面白くないので、色々手を盡して調べて見ると、遂に其れは地下に横たはつてゐる燐鑛の爲だといふ事が判明したのが、一昨年即ち昭和十年の事である。それで早速採掘の出願をした所が、その益金を株主の配當に廻すのならば許されないが、南洋開發の資源にするならいと云ふ事で、本年即ち昭和十二年に到頭政府の許可する所となつた、其の燐鑛は埋藏量五十萬噸とも三十萬噸ともいふが、五十萬噸とすれば約千五百萬圓程のものであつて、結局それが南洋興發株式會社の手に轉がり込まうとしてゐるのである。

砂糖栽培事業の方は、元來南洋群島が我が國の委任統治領になつた後、色々の人が出かけて行つて、新事業を企畫した中で、山口縣の西村氏などが投資して始めたものであるが、不幸にして其れは慘憺たる失敗に終つたのである。ところが其のあとへ松江氏が、新高製糖の重役を止めて乗込んで行つて敗殘の勞働者たちを糾合し、それを使つて新たに又糖業を始めたのが、今日の南洋興發株式會社の初めてである。ところがこれも最初は順調に行かなかつた。豫期した如く苗が成育しないのみか、偶々成育しても蟲害を受けて固まらないと云ふやうな有様で、甚だしい打撃であつたが、松江氏はそれにも屈せず、或は丈夫な苗を移植したり、又、害蟲を捕食する蝶類の繁殖を圖つて蟲害撲滅に従事する等、粒々辛苦を

積んで、勞働者たちからは「事務よく聞けお前の末は、サイパンあたりで野たれ死」と惡罵を浴びせられ乍ら、堅忍不拔の精神でやり通して、遂に今日の大成功を贏ち得たのである。現に南洋廳の會計は獨立會計になつてゐるが、それは實に南洋興發株式會社あつてこそ出来る事であつて、會社から毎年納める出港税が其の歳入の大部分を占めてゐるのである。昭和十年の實例を見ると、其の年に會社が納めた税額は四百萬圓を越してゐるが、これは同年度に於ける南洋廳の總歳入約六百萬圓の三分の二に當るもので、而もなほ將來は、會社事業の一層の活躍に伴れて、更に増額されんとしてゐるのである。會社事業が緒に就いて、松江氏の苦心が初めて酬いられたのは、昭和七年で、其の翌八年から貴族院の視察團が出初めたのであるが、予が加はつたのは其の第三回目の視察團である。視察者の見方によつて多少は感想が異なるであらうが、予は上記の點に注目して、松江氏の國家的偉業を認め、國民が之に感謝を拂ふと共に、政府に於ても十二分に酬いられたいと云ふ事を時の首相廣田氏にも話した事であつた。

在住邦人の生活状態に就ては、砂糖島での作業状況は遂に實見しなかつたが、臺灣では砂糖を一人前に仕上げるには十八ヶ月を要するのに對して、サイパンでは其れが十二ヶ月で足るといふ事で、此の割合で進めば歲月と共に將來は益々收獲率が増加するわけである。なほ農民個人の收益に關して或る沖繩縣人に聞いた所に據ると、一家族が約七八町歩の耕地を受持つて栽培に従事し、其處から得た砂糖を買

つて貰つて、一年に約千五百圓の收入を得てゐるさうである。到底内地の貧農とは比較にならぬ話であつて、彼等は皆衣食足つて安住の生活を營んでゐるのである。只内地人として不快に感ずるのは、ヤモリが多い事で、偶々割烹店などへ行つて見ても、天井から壁から殆ど到る處に、あの氣味のわるい小動物がサラサラと匍ひ廻つてゐる。併し其れも馴れれば別に氣味わるくも感じないさうで恰も内地の蠅くらゐにしか考へてゐない。皆至極おちついたもので、「何もせぬよ」と云つてゐる。氣候も内地で思ふ程暑くはない。殊に時々スコールが來るのが、まるで大きなシャワーを浴びるやうで、其の瞬間は實に快適な氣分である。そして其れが、作物に十二分に行きわたるから、凡てに於て好都合である。

風は颶風の孵化地であるから、却つてそれ程烈しくない。これが内地へ襲來する時には實に恐るべき勢ひであるが、發生地である爲に比較的穏かである。我々が行つた時には、ヤップの東北五百哩に低氣壓の中心があると云ふ事で、サイパンからテニアに渡らうとする海上の波が高く、島を目前に見ながら竟に視察の目的を達する事が出来なかつた。これは、一つにはサイパンに港らしい港がない爲め、外海の波浪のうねりが幾分高い際には船が着けられないのであるが、而も平素は殆どそんな事がなく、太平洋の名にふさはしい静さであるとの事であつた。サイパンに港らしい港がないと云つたが、今在る港はリーフの一部分が圍ひになつてゐるのを利用したもので、僅々三千噸級の小船でなければ岸壁に横つ

けにすることは出来ないのである。これは實に遺憾なことで、現に我々が乗つて行つたサイパン丸を初め、實際此の島に通つてゐる汽船の多くは五千五百噸乃至六千噸であるから、三千噸級の港では役にたかないのである。勿論政府でも早晚改築に着手する事とは思ふが、サイパンは無人島ではなく、南洋の富を語る豊富なる産物が涌き出す所であるから、一日も早く立派に完成させて欲しいものである。經費も三四百萬圓あれば出來ると聞いてゐる。

## 二

次にはサイパン島土人の文化程度の話であるが、これは相當文明化してゐて、餘り土人らしくない。少くとも心持が單純でなくなつて來てゐる。我々一行が行つた時には、支廳長の斡旋で裸踊を見せて貰つたが、踊が終ると彼等は支廳長から煙草を與へられて喫んでゐた。煙草は與へるが、酒は聯盟規約の關係上與へてはならぬ事になつてゐるので、一切飲ませないさうである。國際的な申合せで止むを得ないと云つて了へば其れ迄であるが、これは將來土人を治めて行く上に於て餘程考へを要する事であると思ふ。恐らく働いても酒が飲めないからといふ關係であらうか、彼等は餘り働かない。働いても精々荷揚人足程度である。同じ南洋でもチャモロは、西班牙人と土人との混血兒が多いので、皆西班牙風の着物を着てゐる。又カナカ族は、大體に於て日本人に近い。

此のカナカ族があるのはヤップ島であるが、ヤップとサイバン及テニア間の交通上の聯絡は今の處まで十分に行つてゐない。それで我々も相當時間海上に漂泊してから行つたが、この土人はまだ殆ど原始的状態に止まつてゐる。此のヤップは會て大正三年に、私が少佐で軍艦薩摩の砲術長だつた時に占領した島なので、私に取つては思ひ出の深い所であるが、今度行つて見ると、依然として當時の状況と少しも違はない。こゝでも支廳長の斡旋で、各村各字から踊の上手な者が驅り集められ、男女各三四十人が別々の隊を組んで踊を見せてくれたが、これは所謂尻振ダンスで、男がやつても餘りよい格好ではない。踊の伴奏に樂器が無く、手拍子を打つたり、又、腕・股などを叩いて一種の音を出すのが、まるで小鼓のやうである。女も草の葉を細かく合せて作つた腰囊のやうなものを腰部に着けて、其上へ貝殻又は珊瑚などを付け、顔には赤色又は黄色の顔料を塗つて、それでやはり尻振ダンスをするのであるが、これが彼女等にとつては精一ぱいの盛装であつて、如何にも土人らしい状態である。これは彼等土人には財産といふものが無いからであつて、男は好んで檳榔樹の果實と石灰とを混ぜたものを煙草代りに嚙つてゐるが、それを折鞆式の帽子に入れて持ち歩いてゐる、それが全財産である。だから彼等には全然盜賊に對する恐怖も心配もない。又、自分の島より外へは出ようともしないから交通費も要らない。食物とても椰子の實・パンの樹・タピオカの根といふやうに天産物が豊富にあるから、食はんが爲に心を勞

する事もなく、着物と云へば概ね裸體生活であり、住居と云つても内地の農家の納屋式の粗末な物があれば足るのであるから、衣住の二つも亦共に極めて單純で濟むのである。彼等の最大の樂みはといふと凡てが動物的で、男女共に情慾の發達が非常に早く、十二三歳にもなると大抵皆夫婦關係に入つてゐる。従つて比較的短命で、六七十歳が長命の極限らしい。智育は勿論甚だ劣つたもので、數の觀念は殆どなく、或る「時」を説明するのにも、あの椰子の生えた時といふやうな事で濟ませてゐる。實に氣樂なものであつて、衣食住の爲に青くなつたり赤くなつたりするやうな生活は彼等の中にない。此の點は半面から見ると、甚だ仕合せだとも云へるであらう。

### 三

パラオは南洋廳の所在地であるだけに、ヤップ島あたりから見ると文明的で、道路もペーブメント式であり、廳舎も涼しさうであるが、特に一言したいのは此の島の土人に對する教育方針の事である。現在全島の人口は約五萬人と稱せられてゐるが、其の大部分は内地人であつて、土人の數は甚だ少い。そんな關係からであらうか、こゝでは土人にも日本式の教育を公學校で授けてゐる。我々が行つた時には、此の公學校の生徒といふのが、小笠原長生君作の寸劇などをやつて見せてくれたが、其の演技は實に堂に入つたもので、水兵は水兵らしく、士官は士官らしい帽子をかぶつて登場し、表情も中々巧であ

つた。又讀本なども天照皇大神様の所を讀むのを聞いたが、これ亦堂々たるものであつた。更に體操に至つては、オリンピックの其れよりも寧ろ好成绩なくらゐである。何しろ彼等は生れ落ちるとから徒跣で到る所を駆け廻り、岩の上でも荆棘の中でも平氣で走つて行くのである。又、幼時から闇中で生活し慣れてゐるので、夜間燈火の無い所でも、猫の眼の程度に物が見えるらしい。ところが斯ういふ自然生活者に對しても、所謂公學校では強制して日本人と同じやうに着物を着せてゐるので、此頃では其れが癖になつて、彼等は日本人が來てから寒くなつたと云つてゐる。そんなわけで、曾ては衣食住に金といふものを要しなかつた彼等の間にも、次第に金が入用になつて來た。ところで彼等土人がさうして日本式兒童としての教育を受けた結果、何が酬いられるかと云ふと、登庸の路が開かれてゐるのは巡警が關の山であつて、バラオでは特に秀才だと云はれる土人が、高等法院で行はれる或る種の刑事公判に通譯を勤めるくらゐの事である。折角種々の困苦に耐へて公學校の教育を受けて、十分な登用の路もなく、又成人になつても酒が飲めぬと云ふのでは、結局彼等の間に不平の種を播くものであつて、日本人式の教育を施して知識を與へる事が將來に甚だ厄介な問題を殘しはしないだらうかを私は惧れる。法院長あたりは、酒を飲んで常識を取り外す者は豈ひとりカナカ人のみならんやと云つてゐられたが、内地人も酒を飲むと随分脱線的になる。それを内地人には許して、カナカ土人へのみ禁すると云ふのはどんなも



のであらうか、殊に我々から觀て不思議なのは、バラオでは琉球から出稼ぎに行つてゐる者が生活に窮して、カナカ人に使はれ、土人以下の生活をしてゐるのがあるが、之を使役してゐる主人は土人なるが故に飲酒を禁ぜられ、使はれてゐる雇人は琉球人なるが故に公然と酒を飲んでゐると云ふやうな矛盾を生ずる事で、そんな事から酒類販賣業者などは商業上甚だ困つてゐると云ふ話である。土人が時々琉球人に迫害を加へるのも是等が原因であると云ふが、私は其事を聞いて、將來土人の教育については深く考へないと、折角金をかけて教育して却つて面倒を起す原因になりはしないかと憂慮した。

なほバラオは、我國水産業者・漁業者の根據地になつてゐて、澤山の眞珠取船が盛にあの島から出て遠く木曜島邊まで出動してゐるが、其の他また鯉節の製造も行はれてゐて、南洋水産會社などが、それを内地へ持込んで巨利を博してゐるといふ事である。これは随分將來性のある事業であると思ふ。なほ是等の外にも相當研究すれば、まだまだ有利な事業は多くあらうと思はれるが、一體に現地に於ける學術研究はまだ幼稚なもので、人も少く金も少い爲か漸く我々が行つた時分に熱帯産業研究所なども出来たと云ふ始末である。随つてバラオの何處にどんなものが産するか、どんな事業が發展の餘地があるかと云ふ類の指導がハッキリと出来てゐない。況して海産物の研究は一層前途香遠であつて、御木本では大きな高瀬貝に立派な大眞珠を作る事に成功してゐるが、此の事業もまだ研究の道程にあるやうであ

る。此の高瀬貝は貝卸の原料になるので、其の漁獲はこれ亦邦人の一つの事業になつてゐる。

## 四

パラオの次には比律賓ミンダナオ州のダバオに行つたが、此のダバオで甚だ遺憾に思つたのは、一部日本人の不都合な行動のために同地に於ける邦人事業の發展に不利益を及ぼさうとしてゐる事である。大體ダバオでは麻の栽培が盛であるので、日本人の多くは土人から又借をして事業をしてゐたのであるが、それが法律違反だといふので、從來から問題になつてゐた。それを麻栽培の事業會社として大規模にやつてゐる古川拓殖株式會社の幹部や、或は太田興業株式會社々長の諸隈氏などが心配して、ケーソン大統領との間にうまく交渉を進め、昨昭和十一年七月の議會にも其の點には觸れさせないといふ程度に、問題は下火になりかけてゐたのであるが、それが驚いた事に、昨年十月十八日に行つて見ると、十四日の邦字新聞には、不法邦人開墾者續々檢舉さると出てゐるのである。それで段々聞き合せて見ると、何でも比律賓政府の官有森林を無免許で焼き拂つて其處へ麻を植ゑ込んだ爲に取押へられたらしく、其の身柄處分の爲か日本人會の方へ千ペン出せといふ申込があつたので、或る個人がそれを立て替へて支拂つたとの事であつた。現在ダバオには約一萬四五千入程の日本人が活躍してゐるのであるが、其の中には日本人會、日本領事等の手にもへない不都合な利己主義者が十數名ゐて、無智な土人と契約

しては不法に麻畑を擴げて行くと云ふ如き事をして厄介な問題を起すので、我が邦人の南洋開發上時々残念な出來事が起るので聞いた。一琉球人に麻栽培事業の収益率を聞いて見ると、先づ普通の農夫一人宛に十町歩の麻畑が基準になつてゐて、其處へ約一萬本の麻を植ゑる、勿論それには比律賓人を雇はねば到底自力だけではいけないが、それで三年ぐらゐ経過すると、先づ二十年間は其處から毎年一捆十六貫俵の麻が四百五十乃至五百捆は取れるから、今日の一捆の相場を十五ペソとして、其の中から積出の運賃地代を差引くとしても、一捆約十ペソ(邦貨十七圓)には成る。それが一年には少く見積つても四百捆分取れるとすれば、大丈夫年額五六千圓の収益にはなるといふ事である。此の話の通りならば非常に恵まれて居る状態であつて、これ亦到底内地の貧農生活の比ではないが、それなればこそ比律賓人の間で問題となつて、色々の厄介な事も起つて來るのであらう。ダバオの麻栽培事業に就ては將來の事を慎重に考へて、今のうち十分に適當な手段を講じなければならぬと思ふ。

## 五

次にはセブに行つた。比律賓での最も古い植民地で、東方マクランの島は有名な世界周航の途中でマゼランが土人に殺された記念の島である。このセブには三井とか大同洋行などの有力會社の店があるので、日本人の信用が高く、ダバオなどに比べて、官憲との間も非常に圓滑に行つてゐる。我々が着いた

のはもう夜も八時頃で、退廳時刻を遙に過ぎてゐたのであるが、軍司令官を始め、市長等が歡迎の意を表する爲態々船まで来てくれた。これは日本人の價値が十分に認められてゐる證據であつて、三井などは交際上でも日本人として立派に格式を保つてゐる。これは確にダバオなどは趣の違ふ所である。

セブの次には、タバコに行つた。此處には比律賓富士と呼ばれる美しい圓錐形の山がある。形は我國の富士よりもいゝが富士丈の高さは無い。我々の一行は「ふじの嶺に似たる姿のマヨン山タバコの空に煙吐くなり」などと詠じて興がつたが、實際好い姿の山で、米國航路では常に目標にされる活火山である。次にマニラへ着くと議員其の他日本に親みを持つた人が迎へに来て、外交委員長が殆ど付き、りの方々へ案内して呉れたが、何しろ時間の餘裕が晝間だけしか無かつたので、汗ダクダクで急いで視て廻つた。日本人は此のマニラでもやはり喧嘩をしてゐる。勿論三井や正金の支店もあるが、それは上町の方で、下町の方にあるのは多く漁業者である。それが一方では大亞細亞協會、他の一方では比律賓協會に屬して、互に軋轢してゐる。それで我々が行つた時にも下町の方へは通知が行かなかつたといふので誰も迎へに来ず、上町グループの人だけが出て來たが、下町の人たちは約一時間後に來て熾に不平を云つてゐた。これはホンの一例であるが、萬事が此の通りで折合がうまく行かないのは遺憾である。

マニラを訪うた機會に、あちらの國會議長にも會つた處、其のうちに日本へ遊びに行くと云ふ話であ

つた。若し出て来たならば、日比親善を進める好機會であるから、出来るだけの優遇をして、議員同士の間で親和の路を開いてゆくやうにしたいと思つてゐる。實業家たちも同様に、適當な機會を得て互に信義を示し合ふやうにしたならば、通商關係を一層有利に導いて行くことが出来るであらうと思ふ。

一體に日本人で海外へ出て行つてゐる者の態度は甚だ不徹底であるとの評判がある。これは私の行つて来た比律賓だけではなく中米でも南米でも何處でもさうである。全體我々から觀ると、移民に行くといふ事は養子に行くやうなものである。養子に行つた以上は、其の土地の爲に働いて、其の土地の繁榮に資するといふ覺悟でなければならぬ。私は會て第三艦隊の幕僚としてニコラエフスクに赴いた時、同地の日本商人として露西亞人の間に信用の篤かつた島田商會主に會つた事があるが、その時島田氏が私に語つたのには、自分は此の土地で儲けた金を必ず土地の銀行に置く事にしてゐる。それが當地で信用を博してゐる理由だと云ふ話であつた。これは海外へ出て働く日本人の凡てが傾聽すべき言であつて、ダバオでの例で考へても、比律賓で受けた恩義は比律賓で返すのが正しく、ダバオで得た金は何處までもダバオの發展の爲に使用するのが正しいのである。一面から觀れば、ジャングルが開けて今日の麻畑となつたのには、日本人の努力が與つて力があるのであらうが、其の效績を土地の者に感ぜしめる爲には、飽くまでも其の土地に同化して、ダバオに所謂松杉を植ゑ、ダバオに骨を埋める覺悟でかゝる事が

必要である。さうして日本人の血が比律賓の土に染み込んで行く事になれば、現大統領ケーンソンの如きも合の子なのであるから、日本人が深く根を下ろして地盤を固めた將來に於ては、日本系統の大統領を見る機會も必ず到來するに相違ないと思ふ。こんな事を云ふと何だか夢を語るやうであるが、いつまでも在留人として、約五百人の日本人が同士討して競争に喘いでゐるよりも、却つて事は容易いと思はれる。今後盛に良質の日本人が乗込んで行つて立派に地盤を築き、養子に行つたツモリで、同じ色になるまで飽くまでも腰をすえてかゝつて行つたならば、其の事業の成功は期待すべきものがあることを疑はない。それなのに、いつまでも出稼人根性で、其國の領土を麻に變へ、麻を金に變へて、盛に持つて歸るから、先方では恰も悪い養子をしたやうなもので、便船の來る毎に、座蒲團を、次には又皿小鉢を實家へ運ぶのを見ては、不愉快に感ずるのは無理もない事であると思ふ。私は常に此の點について、日本人の移民方針の不徹底を歎ずるものであつて、斯かる有様では、單に比律賓に於てのみならず、世界の到る所で嫌はれるであらう。私は自分の持論として、日本人の海外發展の理想を現實にする爲には、もつと立派な人を盛に海外に送つて、之を永久的に養子に成らせるやうに計畫せねばならぬと、常に主張してゐるのである。次に比律賓からの歸路には臺灣に立ち寄つたが時日の都合で、遂に小林氏の抱負を聞く機會もなく、*Etiquette* だけで歸つて來たのは遺憾であつた。